

くねっふ 議会だより

想定外の災害に避難場所の役目は 180号
一般質問 ④ページ



—訓子府小学校 歌声広場—

「無限大 心に響け! 最高の歌声を」
というテーマのもと、心をひとつにして
歌声を披露しました。
元気いっぱいに歌う一年生。

も	12月定例会で審議した議案	② ページ
く	平成24年度各会計の決算を認定	⑨ ページ
じ	所管事務調査を実施	⑪ ページ
	東北自主研修報告	⑫ ページ
	議会の主なうごき/あともがき	⑭ ページ

平成25年 12月 定例会

12月10日～11日まで

一般会計2,101万円を補正

平成25年度各会計補正予算については、原案のとおり可決されました。

一般会計(第6号)

歳入歳出予算に2,101万3千円を追加し、総額を39億234万6千円としました。

■主な歳出内容

- 児童手当支給事業
225万5千円を追加
- 経営体育成支援事業補助金
1,439万1千円を計上
- 下水道事業特別会計繰出金
294万7千円を減額
- 町道維持管理事業(機械借上料)
174万8千円を追加
- 町道維持管理事業(補修用原材料費)
218万3千円を追加
- 町営住宅維持管理事業(修繕料)
120万円を追加

国保会計(第3号)

歳入歳出予算に777万7千円を追加し、総額を9億4,531万7千円としました。

■主な歳出内容

- 退職被保険者等療養給付費
680万円を追加

下水道事業会計(第1号)

歳入歳出予算から536万7千円を減額し、総額を1億7,463万3千円としました。

■主な歳出内容

- 農業集落排水事業(工事請負費)
510万4千円を減額

水道事業会計(第3号)

収益的支出に39万4千円を追加し、総額を1億5,326万1千円としました。

■主な歳出内容

- 印刷製本費
39万4千円を追加

議長宛ての文書の送付は議会事務局へ

議長宛ての文書を送付する際は、議長の自宅ではなく議会事務局まで送付くださいますようお願いいたします。

送付先 〒099-1498 訓子府町東町398番地 訓子府町議会事務局 問合せ先 ☎0157-47-2184

条例の制定等

◆町税条例の一部改正

原案可決

地方税法等の改正に伴い、条例を改正しました。

(個人住民税の公的年金からの特別徴収制度の見直し等)

◆水道事業給水条例の一部改正

原案可決



消費税法の改正に伴い、平成26年4月1日から消費税及び地方消費税率が8パーセントになることから、条例を改正しました。

○契約金額 5,335万1千円

◆農業集落排水施設設置及び管理に関する条例の一部改正

原案可決

消費税法の改正に伴い、平成26年4月1日から消費税及び地方消費税率が8%になることから、条例を改正しました。

原案可決

◆個別排水処理施設設置及び管理に関する条例の一部改正

原案可決

消費税法の改正に伴い、平成26年4月1日から消費税及び地方消費税率が8%になることから、条例を改正しました。

◆個別排水処理施設設置及び管理に関する条例の一部改正

原案可決

消費税法の改正に伴い、平成26年4月1日から消費税及び地方消費税率が8%になることから、条例を改正しました。

原案可決

◆財産の処分

原案可決

町有林生産素材(立木)を物林(株)に販売す

原案可決

○変更後契約金額 1億454万8,500円

人事案件

◆人権擁護委員の推薦

適任と決定

平成26年3月31日に任期満了となる人権擁護委員に谷本春代さん(清住・新任)が適任と決定しました。

任期は、平成26年4月1日から平成29年3月31日までの3年間となります。

◆町道路線の認定

原案可決

幸町線道路改良に伴い、本路線の起点が変更になることから、新たに町道認定しました。

◆契約の変更

原案可決

大谷川沈砂池(擁壁)整備工事について、工期延長及び新工種追加のため、契約を変更しました。

○相手方 丸建工業(株)

○変更前契約金額 8,610万円

○変更後契約金額 1億454万8,500円

○変更後契約金額 1億454万8,500円

報告

□出納検査結果報告

報告了承

監査委員から10月から12月までの一般会計、特別会計及び水道事業会計について例月出納検査を実施した結果、出納事務は適法に行われ、異状ないとの報告がありました。

請願、陳情される方へ

○書式例(表紙)

平成〇〇年〇月〇日
訓子府町議会議長 〇〇〇〇様
□□□□に関する請願書(陳情書)
紹介議員 〇〇〇〇 印
(※陳情の場合は必要ありません)
(※請願の場合は1名以上紹介議員が必要です)
請願者 住所 訓子府町〇〇
(陳情者) 氏名 〇〇〇〇 印

○書式例(本文)

□□□□に関する請願(陳情)
要旨
(※請願(陳情)の趣旨を記載してください)
理由
(※請願(陳情)する理由を記載してください)

国や道、町などに意見や要望がある場合はどなたでも請願書や陳情書を議会に提出することができます。

請願書や陳情書を提出される方は左記の書式例を参考に作成してください。

分からないことがございましたら、議会事務局(☎47-2184)までご相談ください。

一般質問

5名の議員が町長、教育長に一般質問を行いました。

想定外の災害に

避難場所の役目は

町長 ▼ 災害の程度によって臨機応変に



小林 議員

なさんがわかりやすく一定人数の収容が可能な公的施設を全町的に指定しています。

このため、中には、

小林 地球温暖化の影響で、異常気象が世界規模的に多発しております。

当町においても想定外の災害・被害が今後発生する可能性が大であると考えます。

そこで、今まで避難場所としてきた所が、今後も町民の方を安心して避難・誘導できるのか伺いたい。

想定外の災害が発生した場合の避難場所・避難通路・避難建物の検証はされたことがあるのか。

町長 避難所の指定にあたっては、地域の

り耐震性の把握を行っておりませんが、全ての施設の設定や災害時に使用できる物資などの把握までには至っていない状況です。

低地にあるもの、耐震性の低いものなどもあり、災害の種類や程度によつては、避難に適さないと思われる避難所や利用を控えなければならぬ所もあることを認識しています。

避難通路については避難所が公的施設となっており、普段利用されている方も多く、地域のみなさんも熟知しているものと思われ

ますが、町においても道路維持のなかで、修繕や除雪など道路環境の把握に努めています。建物については、公

共施設耐震化調査によ

り耐震性の把握を行っておりませんが、全ての施設の設定や災害時に使用できる物資などの把握までには至っていない状況です。

避難場所・経路などの検証については、必要性は感じているが、それだけでなく、地域内あるいは家族どうしでも避難場所や経路、さらには、災害の種類に応じた避難方法などを確認し合うことや、住民どうしがコンセンサスを築いていくことも大切なことであると考

関係機関連携の総合防災訓練を実施しており、直近では平成24年度に実施し、本年度は、災害に対する意識の高揚を図るため、防災・減災講演会と写真展を開催しました。

ありますが、個人はもとより、地域や関係機関など一体となったより実践に近い訓練を予定するなど、訓練内容の充実を図ってまいります。

平成26年度は、地域住民に実際に避難していただくことを中心に地域ごとの小規模では

※小林議員はこの他に「小学校の英語授業の進め方について」の質問をしました。



東日本大震災では高さ10mの防潮堤を津波は乗り越えて襲ってきた

この町で老いても

安心して暮らすには

町長 ▼ 生活状況に合わせた包括的支援を



西山 議員

サービスを、元気な高齢者の生活を支えるため日常的な移動支援としてタクシーや路線バス乗車に対する助成を行っています。

「み」の建設、修繕に対する支援をし、来年度は「静寿園」の増床などに対する支援を考えたいです。

西山 まず高齢者のための施設整備や福祉事業の今後の計画は。

町長 高齢で虚弱な方には、多くの在宅福祉

高齢者施設整備として「静寿園」、老人デイサービスセンター、軽費老人ホーム「ほな

西山 認知症高齢者の早期発見と在宅介護への支援の取り組みは。

町長 本町の現況は、本年6月現在、介護認定を受けている248人の内、認知症状のある方は219人で88.3%、その内日常生活に障害があるような方は174人で70.2%です。



地域で高齢者を支えるための「認知症サポーター養成講座」

増え続ける認知症高齢者の早期発見には、保健師だけではなく、家族や地域の方々に関心を持ってもらい、正しい知識と気づきが大切で、「認知症サポーター養成講座」や「介

護家族を支えあう会」認知症高齢者等SOSネットワーク事業」に取り組んでいます。

西山 ボランティアセンターの実績と認知症サポーター養成講座の人数は。

町長 ボランティアの登録は個人35人、団体1つで申し出は18件で

派遣したのは16件です。認知症サポーターは平成19年〜24年までで553人です。

西山 高齢者だけではなく町民誰もが気軽に立ち寄れる「サロン」づくりの考えは。

町長 空店舗の活用も含めて、商工会とも話し合っけて検討します。

本町の特別支援教育 充実に向けた施策は

教育長 ▼ 乳幼児期から一貫した支援体制

西山 平成19年の4月から特別支援教育が実施されました。

子供の障がいや早期発見と保護者への相談体制はどうなっていますか。

教育長 本町の障がい児早期発見については1歳半、2歳、3歳の健康診断における面談、また毎週月曜日を乳幼児の日として相談業務を行っています。

これらの面談から保健師の訪問、医療機関への紹介、「きらり」への見学通所につなげるなど、子供に必要な支援を行っています。

西山 障がい児の放課後対策と今後の支援員の加配状況は。

教育長 現在、児童センターでの、障がいのある児童は自由来館で4名、児童クラブで2名が登録しておりセン

第4回定例会は、11名の傍聴がありました。

議会を傍聴してみませんか。

平成26年第1回定例会は3月上旬頃開催の予定です。

議会中の議場の様子を庁舎1階町民ホールにおいて、テレビでも放映しています。議会傍聴に関するお問い合わせは、議会事務局 ☎47-2184へ

ター内指導員で適切な対応を行っています。支援員は、訓小に2名、居小に1名、幼稚園に3名、保育園に2名（保育補助員）を配置しています。次年度は中学校の特別支援学級在籍生徒が11名となるので、支援員の配置を検討していきます。

将来を見据えた町づくりは

町長 ▼ 開基120年以降のプロジェクトを



上原 議員

上原 社会環境が変化するなかで住んでみたい町づくりは、第5次総合計画で可能なのか。

町長の町づくり構想と将来を見据えた町づくりプロジェクトチームの立ち上げは考えていないのか、町長の考えを伺いたい。

町長 総合計画を基本に時代の変化や社会情勢をふまえ柔軟に推進するべきと考えている。総合計画は現状と違っているがマニフェストで変化に合わせている。策定の義務化はなく、第6次総合

計画の中で対応したい。

高齢化対策では、本人の自立・自助を尊重したなかで生活状況に合わせた包括的な支援が、安全・安心が確保された生活環境の充実につながるかと考えている。福祉政策も実施計画のローリング方式で対応している。

要請のある長寿会館建て替えは、私の二期目では無理だが早い段階で検討をする。来年は特養・幼保一体化施設・スポーツセンター耐震化・図書館・農地整備事業と考えると財政的に厳しい。

今の町営住宅整備は住み替えだが、コレクティブハウジングについてもやらなければならないと思っている。

遠くない時期に具体化しなければならぬ。

庁舎内の連携は当たり前となつている。さらに町の推進会議を進め、開基120年以降のプロジェクトを作りたい。



高齢者専用住宅と公営住宅が一体となった“コレクティブハウジング”

町民の命を守る 災害対策は

町長 ▼ 地域が主体となった活動の支援

上原 想定外の災害が常態化する中で、町としての対策と課題や町民の被災回避意識の高揚策さらに町として町民の命を守る取り組みについての考えは。

町長 ハード的対策・ソフト面の対策を実施しているが、職員体制や財源での限界がある。危機意識に温度差があり広報や訓練が地域の自主的活動へ発展しにくい課題がある。平時の備えと有事の行動力が重要であり、自分の命は自分で守る意識をもって行動することが求められる。

自主防災組織の立ち上げなど、地域が主体となった活動を積極的に支援したい。このことは、行政主

導では得られない効果があると同時に、地域力の向上につながる。

災害時の陣頭指揮は町長の務めであり、災害発生予想段階から情報入手に努め、出来る限りの対策を講じる。河合教授から「地域のことは地域が一番知っている、行政が一番責任がある。一緒にやるべき」との提言があり、地域で想定される危険箇所についての位置付けをし、広げなければならぬ。

来年度の防災訓練に各地域の多くの住民参加を期待している。

一般質問の記事掲載について

一般質問の記事については、一質問者につき二問までを掲載し、内容を要約しています。

その他の質問事項や詳しい内容については、会議録をご覧ください。

会議録は図書館に備えてあります。また、町ホームページ(<http://www.town.kunneppu.hokkaido.jp/>)にも掲載しております。

なお、会議録公開については、議会終了後3カ月程度の期間を要します。

福祉灯油を実施する

考えはないか

町長 ▼ 前向きに対応していきたい



工藤 議員

の需要が増えるこの時期に町民の生活を圧迫していることは容易に想像できます。

特に所得の低い高齢者や障がい者などの世帯にとつて灯油などの暖房経費が直接的に生活を圧迫・困窮させて

いるものと認識しており、今後の灯油価格の推移や近隣市町村の動向も注視しながら、算出根拠や基準額など、本町の算出方法の是非も含めて前向きに対応していきます。

工藤 これから本格的寒さが訪れる本町において、灯油価格の高騰は家計に重くのしかかることが予測される。特に低額の年金収入だけの高齢者世帯や経済的困難を抱えている世帯に対しては支援が必要ではないか。

本年10月からの円安などの影響から生活必需品の値上がりや年金支給額の減などの生活状況を見た時「福祉灯油」の実施が必要にならないか。

町長 原油の高騰に伴い灯油価格が高い水準で推移しており、灯油

再生エネルギー活用に取り組む考えは

町長 ▼ 投資効果と併せ導入を検討

工藤 当地においても集中豪雨など温暖化に起因する災害が起り、また東日本大震災による福島原発事故から原発撤退を国民の多くは望んでいる。

同時にこれからのエネルギーについての議論も起きているが、本

町も平成21年2月に「地域新エネルギービジョン」を出しているが、その評価とその後展開をどのように考えているか。

町長 このビジョンは「独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構」の支援を受けて

調査、策定したものです。

「訓子府クリーンエネルギー資源活用実証調査委員会」による事業化に向けた取り組みとして、混合燃料の燃焼実験や収集コストの調査を実施したが、原材料の収集コストや安定的確保が難しく、ポイラー製造にも多額の経費を要するなどが課題となり事業化を断念しています。

しかし森林系バイオマスは町有林の皆伐や間伐による林地残材が一般家庭などにも活用できることがわかり、今後公共施設建設の中でも利用できるかを検討しているところです。
工藤 本町において経済的地域内循環を進める点においても、再生可能エネルギー活用に取り組む考えはないか。
町長 平成24年4月に「訓子府町地球温暖化

対策実行計画」を策定し、本町の全ての組織、施設を対象に平成28年度二酸化炭素排出量6%削減を目標としています。

この計画の下、公共施設の建設や設備更新の際には、森林系バイオマスを始め地中熱、空気熱を活用した熱エ

ネルギーを中心に投資効果と併せ再生エネルギーの導入を検討しているところです。

※工藤議員はこの他に「農地中間管理事業について」の質問をしました。



訓子府町地域新エネルギービジョン

消防団員の不足に 対しての対策は

町長 ▼ 入団要請を積極的に行っていく



余湖 議員

部の方々が新人団員を勧誘する事に大変な努力をしているのが現状です。

訓子府町としても、

もっと積極的な協力が
必要と思います。

余湖 新規の消防団員確保のため消防団の勧誘活動が行われていますが、団員のなり手がいないのが実情です。

訓子府町としてはどの様に考えていますか。

町長 団員の確保に向けては、団が中心となつて募集チラシの配布、広報誌への記事掲載、新聞広告掲載はじめ勧誘活動に努力されていることは十分承知しており、町においても種々協力させていただいているところです。

余湖 日頃仕事をしながらボランティアとして活動している団幹

町長 消防組合本部との相談の上で他町との横並びなども考えて今後考えていく事は可能な事だと思えます。

余湖 消防団員への福利厚生の補助の今後の充実についてどう考えていますか。

町長 町としては現在互助会に対して例年80万円超の予算を組んで対処していますが、

その年々に団からの要望があれば査定のもとに予算を増やしています。

今後とも団と相談してその都度の事業に関しては判断して検討させていただきます。

余湖 町職員の今後の消防団への入団についてはどう考えていますか。

町長 町職員は常に公務を担っている特殊事情もあるので慎重に進めなければならぬと考えています。

とや災害補償のことなどを理解したうえで、あくまでも本人の意思で判断してもらおう必要があります。



団員の確保に向け積極的な要請が求められる

「議会だより」についてご意見をお寄せください。

議会に対するご意見や、議会だよりを見て感じたことなど
どんなことでも結構です。
どうぞ議会事務局までご意見をお寄せください。



☎ 47-2184・FAX 47-2600 ✉ gikai@town.kunneppu.hokkaido.jp

平成24年度 各会計の決算を認定

第3回定例会（平成25年9月17日）において、決算審査特別委員会（委員長・安藤 義昭）に付託された「平成24年度訓子府町各会計決算」については、同年11月5日～8日の4日間にわたり、決算報告書などを審査した結果、6会計の決算はいずれも正当で認定すべきものとして本会議で報告があり、認定することに決定した。

決算審査特別委員会委員長の「審査意見」

町税及び使用料の収納状況については、これまでの職員の努力により、その成果が認められるところであります。

しかし、自主財源の確保と税の公平性の原則からも、今後も収納率の向上の努力をお願いするところですが、滞納者の生活実態に配慮した対応も併せてお願いいたします。

歳出に関しては「財政健全化戦略プラン」の成果により、予算やその執行に対する工夫など、評価できるものであります。

しかし、その予算の中で、大きなウエイトを占める各施設などの維持管理経費の縮減が

課題であり、全庁的な創意、工夫などの取り組みを求めるものであります。

また、今後予定されている施設整備にあたっては、将来的な維持管理経費を十分に検討した中での、計画策定を望むものであります。

歳出全般では、さらに財政健全化を押し進めることを求めるものであります。

職員育成については、各種の研修会などに積極的に派遣し、職員個々の能力を高める

努力を望むものです。

国保会計並びに介護保険会計については、町民の健康に対する長期的な視点に立つての計画策定を求めるものであり、特に高齢者の介護予防については、地域と連携した事業を積極的に展開し、介護予防業務の充実を望むものであります。

最後に、厳しい財政状況で職員が減少している中、財政健全化に向けた職員一人ひとりの努力は十分に評価できるところであります。

今後においても、町民のためのまちづくりに向けた創意、工夫と一層の努力をいただきます。

平成24年度 各会計決算額

(単位:円)

会 計 名	歳 入	歳 出	差 引 額	
一 般 会 計	4,231,758,721	3,882,512,690	349,246,031	
国民健康保険特別会計	929,257,071	906,325,912	22,931,159	
後期高齢者医療特別会計	71,512,952	70,957,952	555,000	
介護保険特別会計	455,814,408	446,993,544	8,820,864	
下水道事業特別会計	176,308,911	176,308,911	0	
合 計	5,864,652,063	5,483,099,009	381,553,054	
水道事業会計	収益的収支	175,300,689	149,160,406	26,140,283
	資本的収支	28,025,290	62,106,076	△ 34,080,786

ひとことインタビュー

議会を傍聴された方に
感想を聞いてみました。

今回はお二人の方にお聞きしました。

◆議会を傍聴したきっかけは？

Aさん

老人クラブの集まりで議会の話になり、知らない人がほとんどだったので、一度傍聴してみようと思いました。

Bさん

Aさんに誘われて初めて行ってみました。

◆傍聴した感想は？

Aさん

全体的に議員が大人しいと感じました。

質問の内容も、少し違うなと思うところがありました。議員はもっと自信を持って、町民の声を広く聴き、拾い上げて声を大にしてやってほしいと思います。

Bさん

一人では、入りずらく感じました。

理筆者側の人数の方が多くて、傍聴席から見ると威圧感を感じました。

議員は、もっともっと勉強して、町民のために頑張ってほしいと思いました。

議決した意見書

— 議員提案により次の意見書案が提出され、原案のとおり可決し、政府関係機関に意見書を提出しました。 —

- ◆2014年度地方財政の確立に関する要望意見書
- ◆高規格幹線道路整備促進に関する要望意見書
- ◆森林・林業・木材産業施策の積極的な展開に関する要望意見書
- ◆経営所得安定対策の来年度継続と慎重な見直しを求める要望意見書
- ◆平成26年度畜産物価格決定等に関する要望意見書

「津野町議会」正副議長らが来町

本町と姉妹町である津野町の議会は、昨年6月に議員選挙が行われ、7月1日から新体制となりました。

11月28日に新たに選任された中越議長、西森副議長及び今橋議会事務局長、町側からは村田副町長の4人が、表敬訪問のため来町いたしました。

役場での歓迎セレモニーや津野町のヒノキを使用した児童センター「ゆめゆめ館」の視察、関係者との交流会などを実施したほか、翌日には、クノール食品やJAのたまねぎ選果場、北見市の北海道糖業などの農業関連施設を視察しました。

今回の来町は、2日間という短い日程での交流でしたが、両町の絆がより一層、深まりました。



所管事務調査を実施

総務文教、産業建設の各常任委員会では、議会閉会中も所管事務調査などの調査活動を行っています。

総務文教常任委員会

□12月3日（火）

○老人クラブ連合会役員との意見交換会を実施しました。老人クラブが抱えている問題や、特養の増床について、町の高齢者ハイヤー利用サービス、敬老祭について意見交換を行いました。

○くねつふ静寿園を視察しました。施設の運営状況、増床について説明を受けました。

□1月21日（火）

○所管する事務について、担当者から現地で説明を受け、調査を実施しました。

（調査項目）

- ①車座トクの開催状況
- ②教育用コンピュータの活用状況
- ③児童センターの運営状況



高齢者への様々な施策について活発な意見が出された

産業建設常任委員会

□12月2日（月）

○所管する事務について、担当者から現地で説明を受け、調査を実施しました。

（調査項目）

①旧訓子府駅周辺整備工事

②いずみ児童公園遊具管理状況

○TMRセンターを視察しました。K、sフイード役員から事業概要等について説明を受けました。

□1月30日（木）

○農業委員会委員との意見交換会を実施しました。



TMRセンター調製庫

北網ブロック町村議会議員研修会

10月25日、北網ブロック町村議会議員研修会が、斜里町「ゆめホール知床」で開催され、本町から9名の議員が参加しました。

この研修会は、議員の資質の向上と交流を図るため毎年開催されています。

講師は、(株)山口油屋福太郎 社長 山口毅氏でした。

氏は(九州)福岡市で辛子めんたいこ、せんべいなど幅広く食品を製造販売しています。

平成25年7月、清水町の廃校になった小学校跡に、せんべい工場をオープンし「ほがじゃ」の製造販売を始めました。

清水町とのきっかけは、NHKラジオで清水町の青年たちが作った「世界一大きなでんぶん団子」がギネス登録されたことを知り、そこから交流が始まり、工場誘致に至りました。

地域産業の活性化、雇用促進、地産地消など、北海道が抱える共通の課題の解決の糸口になりました。清水水工場で製造されている「ほがじゃ」は好評なようで、女満別、千歳空港の売店にも並んでいます。

自分たちの町の資源に気付き、発信すること、ネットワークを広げること、まず動いてみるなどが、大きな成果を生むことになることを実感しました。

（河端）

主 研 修 」 を 実 施



防潮堤に立ち、当時の波の恐ろしさを感じる

被災地に学ぶ

11月14日～17日の4日間にわたり、7名の議員が、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県及び宮城県へ自費による視察研修を三陸鉄道「被災地フロントライン研修」を利用し実施しました。
主な視察箇所は、宮古市田老地区のスーパ―防潮堤、大槌町では副町長との懇談、200人以上の方が避難し、そのほとんどが亡くなられた釜石市鶴住居地区防災センター、女性職員が最後まで避難の呼びかけをおこなった南三陸町防災庁舎、避難の途中、約80人の児童が命を落とした石巻市大川小学校などを三陸鉄道の社員の説明を受けながら被災地をまわりました。
参加した議員7人の感想を「被災地に学ぶ」と題し掲載いたします。

橋本 初めに、この度の大震災によって失われた数多くの魂に哀悼の意を表すると共に被害を受けられたすべての皆さまに対して心よりお見舞い申し上げます。
3・11、マグニチュード9.0かつてない大震災、特に沿岸部に発生した大津波は、かけがえのない多くの命や大切な思い出、あらゆるものを根こそぎ飲み込みました。現場の

10m大防潮堤に立ち、15mの波を想像した時、大自然の恐ろしさに私自身も恐怖感を感じずにはいられませんでした。あれから2年8ヶ月、何もかも失った場所から力強く、もう一度全力で立ち上がろうとする人々の姿と、いろいろな人たちからお話を伺い「私たちが忘れないで下さい」の言葉がまだ心に残っています。これからも東日本大震災の力強い復興をお祈り致すと共に引き続きエールとご支援

をお送り致します。

上原 テレビの映像が脳裏を過ぎる中現地に入った。
ガレキは撤去されほとんどは、雑草に覆われたさら地となっていた。残された被災施設や壊れた防潮堤、多くの命と共に破壊された庁舎・防災施設には、慰霊の祭壇が設置され、花を手向け手を合わせ

る人の姿がある。
被災地の路肩には、スーパ―土のうが並び、地盤沈下で路面と水面が同じ、海の近くの学校では冷静な避難行動とアドバイスで全ての命を守る一方で、指定避難場所80余名の命を失う学校もあった。
予算で復興は進まないなど現地で知ること

は多い、町職員も公費で現地に入り、マスクミ報道されない救済現場の実態などを見聞き



多くの職員も犠牲となった大槌町役場庁舎

し、災害への備えをするのは自治体の使命と
思う。
旧大槌町役場、南三陸町防災対策庁舎、石巻市の大川小学校など痛ましい被災現場では言葉を失うと同時に、私たちに何かを訴える声を強く感じられ、今なおそのことに対して自問しています。
大槌町の佐々木副町長の「私たちに何を望みますか」との質問に

工藤 東日本大震災で未曾有の被害を受けた岩手、宮城両県の被災地を訪れ、自分の認識の甘さを痛感しました。
被災から2年8ヶ月余経つてはいるが、3万5千戸を超える仮設住宅での生活や、津波によって何もかも失いさら地と化した広大な

対して「忘れないでほしい」との一言が強く心に残っています。

が分別処理されていた事。

さら地には、枯れ草と保存を問われる無残な姿の建物が何かを訴えるようにたたずんでいた。

西山

走行距離約700km。三陸鉄道のマイクログラバスで4日間ひたすら走る。岩手県宮古

市田老地区、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市、松島町、仙台市、全てが被災地。

余湖 震災後千日を過ぎた東北の被災地を見て今だに進まない復興に現実の難しさを感じます。

消防で訪れた2年4ヶ月前と変わっていたのは、山積みガレキ

（町外からの応援29人）が進まない交渉に毎日地道に取り組み。「被災地を忘れないで」副町長の言葉が心に染み

私は一昨年7月に震災から3ヶ月の現地を視察して壊れた家屋や山積みガレキなど生々しい現実を見つめてきました。

「想定外」の災害だつたと言われていますが、自分の町に起こりうる災害をどう想定し、備えなければならぬのか考えさせられた研修でした。「忘れないでほしい。観光でも良いから被災地に来てほしい」との声を多くの方から聞きました。

「想定外」の災害だつたと言われていますが、自分の町に起こりうる災害をどう想定し、備えなければならぬのか考えさせられた研修でした。「忘れないでほしい。観光でも良いから被災地に来てほしい」との声を多くの方から聞きました。

大槌町・石巻市と被害を受けた所を見させていただき、安心という先入観も被害を大きくするという事も研修し、常日頃の防災訓練・防災教育の必要性を強く感じて来ました。



大槌町副町長から話を伺う

被災地はまだガレキが残る所があり壊れたそのまの住宅もあり、きれいに片付けられた土地にも家は建たず、当時と同じ数の仮設住宅が存在していました。

被災地はまだガレキが残る所があり壊れたそのまの住宅もあり、きれいに片付けられた土地にも家は建たず、当時と同じ数の仮設住宅が存在していました。

河端 TVでは順調に復興が進んでいるとの報道がされていますが、被災地を訪れると、ガレキはほとんど処理されてはいましたが、さら地になったままの状況でした。

小林 私ども議員7名で、東北大震災の現状をつぶさに研修してまいりましたが、現地に行つて想定外の津波により壊滅的な被害を目の当たりにしたとき、言葉にならない衝撃を受けぼうぜん立ちす

宮古市田老地区では海面から高さ10m全長1350mの万里の長城と呼ばれていた防潮堤を、高さ15mの波が乗り越え壊滅的被害が、また釜石市では、防災センターに避難した多くの人が亡くなりました。

石巻市大川小学校跡地 亡くなった生徒たちの冥福を祈り献花を行った



南三陸町の防災対策庁舎は取り壊しが決まったが、震災を忘れてはいけない

「震災を忘れてはいけない」、「継続的な支

地権者が亡くなったり転居したりして今後の生活のめどが立たな

くんでしまいました。宮古市田老地区では海面から高さ10m全長1350mの万里の長城と呼ばれていた防潮堤を、高さ15mの波が乗り越え壊滅的被害が、また釜石市では、防災センターに避難した多くの人が亡くなりました。



石巻市大川小学校跡地 亡くなった生徒たちの冥福を祈り献花を行った

議会の主なうごき

11月	27日 全員協議会 総務文教常任委員会	24日 議会広報特別委員会
3日 功労者等顕彰式(全議員)	28日 産業建設常任委員会 高知県津野町議会表敬訪問 歓迎セレモニー(正副議長、 総文・産建・議運委員長)	1月
5~8日 決算審査特別委員会(決算審 査特別委員、議長)	29日 第1回武部あらた収穫感謝 祭(北見市:議長)	5日 訓子府町消防団出初式(全議員)
5日 防災・減災講演会(全議員)	30日 常呂消防団100周年記念式 典及び祝賀会(北見市:消防 組合議員)	7日 公職者・団体代表者等新年交 礼会(全議員)
8日 自衛隊父兄会訓子府支部創立 50周年記念協議会解散式(議 長)		8日 高知県津野町への交換留学 生派遣に係る出発式(正副議長)
10日 居武士小学校学芸会(議長)		中央長寿会新年会(議長)
11日 オホーツク町村議会議長会 役員会(興部町:議長)		10日 議会広報特別委員会
13日 町村議会議長全国大会(東京 都:議長)		12日 成人式(全議員)
14~17日 議員東北自主研修(岩手県・ 宮城県:7名議員)	12月	16日 議会広報特別委員会
17日 幼稚園発表会(総文副委員長)	2日 産業建設常任委員会(所管事 務調査)	17日 自衛隊父兄会訓子府支部総 会(議長)
21日 北網ブロック市町議会議長 協議会(北見市:正副議長)	3日 総務文教常任委員会(所管事 務調査)	21日 議会活性化特別委員会 総務文教常任委員会(所管事 務調査)
22日 訓子府町玉葱振興会・同青年 部設立50周年記念式典(議長)	9日 議会運営委員会	22日 ふれあい昼食会(議長)
23日 新穀感謝祭々典(正副議長、 産建委員長)	10~11日 第4回定例会	28日 総務文教常任委員会(所管事 務調査)
26日 議会運営委員会	10日 産業建設常任委員会	30日 産業建設常任委員会(所管事 務調査)
	11日 議会広報特別委員会	31日 議会改革フォーラム(津別町)
	19日 北見地区消防組合議会親睦 会(消防組合議員、議長)	

委員会の活動

議会運営委員会

- 11月26日(火)
- 12月9日(月)

○ 第4回定例会の運営方法について協議を行った。

総務文教常任委員会

- 11月27日(水)

○ 第4回定例会における議案の審査を行った。

- 12月3日(火)
- 1月21日(火)・28日(火)

○ 所管事務調査を行った。

産業建設常任委員会

- 11月28日(木)
- 12月10日(火)

○ 第4回定例会における議案の審査を行った。

- 12月2日(月)
- 1月30日(木)

○ 所管事務調査を行った。

議会広報特別委員会

- 12月11日(水)

○ 「議会だより」第179号の問題提起、次号の掲載予定記事の確認を行った。

- 12月24日(火)

○ 第4回定例会での一般質問の原稿等を確認した。

□ 1月10日(金)・16日(木)

○ 「議会だより」第180号の確認作業を行った。

あとがき

「今年こそは良い年」と期待をもって新年を迎えましたが、TPP問題、農政改革、秘密保護法の成立、4月から消費税が8%に上がるなど先行きに不安が残る年明けとなりました。

「住み慣れた地域で安心して暮らしたい」誰もが願うささやかな望みさえも難しくなってきました。

今年には任期最後の年となりますが、議員心を合わせて重責を担っていきます。

議会広報特別委員会
委員長 河端 芳恵

議会広報特別委員会	
委員長	河端 芳恵
副委員長	西山 由美子
委員	小林 一甫 佐藤 静基 安藤 義昭 上原 豊茂 工藤 弘喜 山本 朝英 余湖 龍三
議長	橋本 憲治